

# 平成29年度後期芦安中学校学校関係者評価書

平成29年1月25日  
芦安地区学校関係者評価委員会

## 1 経過

第2回芦安地区学校関係者評価委員会

日時：平成30年1月24日(水) 19:00～20:00

場所：芦安小学校 多目的ホール

## 2 参加者 評価委員6名 小学校3名 中学校3名

No.	氏名	役職名		備考
1	佐々木 健	芦安小中学校PTA副会長		副委員長
2	清水 実	芦安子を守る会会長		
3	伊東 隆雅	芦安地区保護司		
4	清水 准一	NPO法人芦安ファンクラブ会長		
5	三井 孝司	芦安窓口サービスセンター長		
6	森本 章雄	芦安地区学校応援団代表		
7	名取 昭彦	芦安小学校	校長	
8	樋川 和之		教頭	事務局
9	興石みさを		教務主任	
10	石原 敬彦	芦安中学校	校長	
11	丹澤 博		教頭	事務局
12	早川 武浩		教務主任	

## 3 学校から提案された内容

[後期中学校自己評価の分析と改善方策]

- (1) 後期(12月)職員アンケート結果
- (2) 後期(12月)生徒アンケート結果
- (3) 後期(12月)保護者アンケート結果
- (4) 芦安中学校後期自己評価書

## 4 協議された主な内容

- (1) 学校の様子全般についての意見・質問
- (2) 後期アンケート結果についての意見・質問
- (3) 自己評価の結果を踏まえた今後の芦安地区の教育のあり方について 意見・要望

## 5 評価委員会で出された主な意見・質疑

### (1) 学校の様子について

#### ① 少人数で一人一人に向き合いきめ細かく指導できていると思う。

→ありがとうございます。少人数であるから個に応じた指導であると捉えずに、一人一人の生徒に向き合っこそ、個に応じた指導であると考えている。一人の生徒にとって、より良い指導とは何なのか、全職員で分析・計画・実践・検証・改善する体制づくりに努めたが、今後も継続していきたい。不登校生徒もなく全員が楽しい学校生活が送れているとアンケートに回答してくれていることも、一人一人の生徒に向き合えた結果と言える。

#### ② 全校登山を継続して欲しい。

→全校登山は自然・文化・環境等をねらいとした自然体験活動（集団宿泊的行事）であり、今年度は、北岳の環境を柱とした事前学習に力を入れた。一方、「しなやかな心」を育む絶好の機会であるという認識を改めて持ちたい。今年度、全生徒が参加し、時には体力的に苦しい場面もあったかもしれないが、互いに助け合っ登ることができた。全員で体験を共有したことで、その後の生活の中で互いに認め合い、少しの苦労は超えていけること（楽しい学校生活）につながっていると考える。来年度以降も地域の方のご支援をお願いしたい。

#### ③ 引き続き、「英会話科」と「言語活動」の充実を図って欲しい。

→ありがとうございます。本年度は全職員による英会話指導、留学生等に対して実際に使える英会話に取り組んだ。また、各教科等においては言語活動の充実に取り組んだ。県外から2名の講師を招聘（計6回）し、指導の方向性や実践について指導を受けた。特に、「学び合い」については、変化の激しい社会を生きていく生徒に必要な資質・能力を育成する視点で授業改善に努めている。まだまだ改善点があるものの、講師の先生方から「先生方の指導が変わってきましたね。」等のおほめの言葉をいただいた。生徒や保護者の評価も高いので、継続して研究していく。

#### ④（学校から）家庭学習につながる授業づくり、主体的に学ぶ姿勢の大切さを学校と家庭で共有する取組を推進していますが、宿題以外の家庭学習をする時間が少ない現状があります。このことについて意見をください。

→（関係者評価委員から）学校では「まなびの時間」を実施してくれていて、放課後（45分程度）自主学習の時間を確保してくれている。多くの先生方が関わってくれているようだ。このような取組をしてきている学校は少ないのではないか。伝統的に教師と生徒が近い距離の中で学習等に取り組んでいる。

→（学校から）ありがとうございます。しかしながら、自ら主体的に学習する態度は生涯にわたって必要な資質・能力である。家庭学習については単に「勉強しなさい。」ではなく「何を・どのように」という指導を心がけている。また、生徒の自発的な学習に結びつく授業改善を更に研究していきたい。

### (2) 小・中学校共通として出された意見・質疑

#### ① 小中学校ともとても良くやってくれている。引き続きお願いしたい。

#### ② 学校周辺で工事が始まっているが、騒音は大丈夫ですか。

→お気遣いありがとうございます。大丈夫です。

(3) 今後の芦安地区の教育のあり方について

- ①芦安地区以外から多くの生徒が通学している。現在、「合同PTA総会」「芦安文化祭」「やまぶき祭り」等々、行事としての結びつきは非常に強い。これらを利用して、芦安小中に通う子供たちのことを語る機会を今後計画していきたい。芦安地区、芦安地区外ということにとらわれずに子供たちに何ができるか考えていきたい。
- ②地域を担う子供を育てるために、学校・家庭・地域はそれぞれどのように関わっていったら良いのか、これからも検討していきたい。地域行事である「どんど焼き」等に他地区から通っている生徒も参加できるように学校と地域で連携を試みた。来年度以降も、連携していきましょう。
- ③小中一貫校の話も聞いている。是非、頑張ってもらいたい。

6 分析・評価

芦安地区後期学校関係者評価委員会において、「わかりやすい授業づくり」「楽しい学校生活」「いじめゼロの取り組み」については参考資料である教職員・生徒・保護者のアンケートの評価結果が本年度前期より大幅に向上していて、まだ、年度途中ではあるが大きな成果をあげていることが確認できた。3学期以降、更に今の取り組みを推進したい。少人数だからこそできる一人一人の生徒を大切に「きめ細かな指導」を基に、「学力向上」(学び合いを取り入れた授業)を柱に更に芦安中教育の推進に努めていきたい。また、生徒や教師が地域の方と関わる機会を増やしたり、地域人材をゲストティーチャーとして招くなどの取組を教育課程に位置付けていく。芦安の強みは学校・保護者・地域の距離が近いことである。芦安中の子どもたちのためにこれからも学校・家庭・地域が互いに協力していく確認もとることができた。